



Doshisha University

持続可能な文化の将来—コロナウィルスと文化政策の再構築
日英国際オンラインセミナー シリーズ第1回

文化鑑賞・参加行動—日英両国における調査結果から

2020年初めより世界中を襲った新型コロナウイルス感染症により、文化芸術の分野は大きな影響を受けてきました。公演や展示の中止、文化施設の閉館といった未曾有の危機に直面し、各国の文化政策はこれまでにない対応を迫られることとなりました。この状況は今日も収束したとはいえませんが、そのような最中の今こそ、文化政策の新たなあり方を模索しなければならないと思われま

従来、文化政策というものに消極的ではありながら、アームズレングスによる助成の仕組み、文化の経済的・社会的価値、クリエイティブ産業政策などの点から世界の文化政策をリードしてきたともいえる英国と、文化予算が豊富とはいえないものの、昨今は特に地方創生、文化観光など他の政策領域と結びつき拡張しつつある日本を比較し、文化政策と持続可能な文化の将来を考えていくことが本プロジェクトの目的です。

プロジェクト初年度（2021年12月～2022年11月）は「文化政策、文化の価値に関する両国民の意識と文化鑑賞行動の実態」をテーマとしており、両国でウェブ調査を実施しました。今回は特に人々の文化的行動（鑑賞、実践、ボランティア等を通じての関わり）に関する部分に焦点をあて、調査結果から一部を紹介し、日本の文化社会学者およびアーツカウンシルイングランド調査部長も交えて議論していく機会とします。

本セミナーは、学術関係者のみならず、広く文化行政、文化の現場に携わる実務者たちにも向けて企画されています。90分とコンパクトな設定で日英同時通訳付きですので、ぜひお気軽にご参加下さい。

日 付：2022年12月2日（金）

時 間：19:00 - 20:30

形 式：オンラインZOOMウェビナー

参加費：無料 申し込みフォームはこちら→ <https://forms.gle/WkknwXbWujZzsodXa9>



プログラム：

19:00-19:05 開会挨拶（同志社大学 教授 河島伸子）

19:05-19:15 「日英国際共同研究の目的と今回の調査の趣旨」
（キングスカレッジロンドン教授 Hye-Kyung Lee）

19:15-19:25 報告1「日本における文化鑑賞・参加行動—調査結果より」
（同志社大学 准教授 迫田さやか）

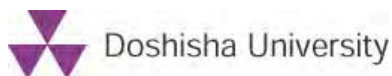
19:25-19:35 報告1へのコメント（駒澤大学 教授 片岡栄美）

19:35-19:45 報告2「イギリスにおける文化鑑賞・参加行動と文化に関する価値観」
（キングスカレッジロンドン Sana Kim）

19:45-19:55 報告2へのコメント（アーツカウンシルイングランド Andrew Mowlah）

19:55-20:25 質疑応答・ディスカッション

20:25-20:30 閉会



持続可能な文化の将来—コロナウィルスと文化政策の再構築 日英国際オンラインセミナー シリーズ第1回 文化鑑賞・参加行動—日英両国における調査結果から

登壇者プロフィール

河島 伸子 (同志社大学 経済学部 教授)

本研究プロジェクトリーダー。PhD(文化政策学、英国ウォーリック大学)
専門は文化経済学、文化政策論、アートマネジメント論、コンテンツ産業論など
主書に『コンテンツ産業論第2版』、共著に『新時代のミュージアム』『変貌する日本のコンテンツ産業』
『イギリス映画と文化政策』『グローバル化する文化政策』『文化政策学』『アーツマネジメント』
Film Policy in a Globalized Cultural Economy (with John Hill [eds], Routledge, 2017)、
Asian Cultural Flows (with Hye-Kyung Lee [eds], Springer, 2018)など。
文化審議会委員、同文化政策部会会長、同無形文化遺産部会委員他を務める。



迫田 さやか (同志社大学 経済学部 准教授)

専門:所得分配論・医療経済学・経済政策 博士(経済学)
同志社大学大学院博士後期課程単位取得退学、フランス国立社会科学高等研究院客員研究員、京都
大学勤務を経て2022年4月現職。主著:『夫婦格差社会』中公新書(2013)、『離婚の経済学—愛と別れの
の論理』講談社現代新書(2020)(どちらも橋本俊詔氏との共著)
<https://researchmap.jp/sayakasakoda>



片岡 栄美 (駒澤大学 文学部 教授)

専門:文化社会学・教育社会学・社会階層論 博士(社会学)
大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程単位取得退学、大阪大学人間科学部助手、関東学院
大学文学部教授を経て、2006年4月から現職。日本教育社会学学会理事(2007-2011,2013-2019)ほか。
主著:『趣味の社会学 文化・階層・ジェンダー』青弓社(2019)、『文化の権力 反射するブルデュー』ほ
か略。<https://researchmap.jp/read0031286>



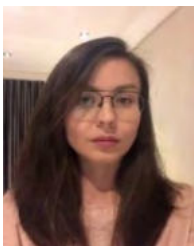
Hye-Kyung Lee (キングスカレッジロンドン 教授 文化政策)

本プロジェクト共同リーダー。英国キングスカレッジロンドン文化・メディア・クリエイティブ産業学部文化政策
教授。文化セクター、国家、市場の関係に関心があり、文化政策、芸術助成、クリエイティブ産業、文化産業
政策、著作権などを研究している。著書に『Cultural Policies in East Asia』(2014)、『Asian Cultural Flow』
(Springer 2018)、『Cultural Policy in South Korea』(Routledge 2019)、『Routledge Handbook of Cultural
and Creative Industries in Asia』(2019)などがある。Cultural Trendsを共同編集している。ESRCが資金提
供するSustainable Cultural Futures(2022-2025)を主導するほか、ESRC Network on Globalizing South
Korean Creativity(2022-23)を共同主導している。



Sana Kim (キングスカレッジロンドン)

キングスカレッジロンドンの文化・メディア・クリエイティブ産業学部の博士研究員。クリエイティブ産業・経済とい
う広い視野の中で、文化政策、クリエイティブワーク、クリエイティブエコロジー・生態系に関心を持つ。1997年
にカザフスタンで行われた首都移転が、その後のカザフスタンの新首都(アスタナ)と旧首都(アルマティ)の創
造的発展に与えた影響について、博士課程で研究している。博士号取得後、DISCE(Developing Inclusive &
Sustainable Creative Economies)と題するEUの共同プロジェクトに参加し、ヨーロッパ全体の創造的経済の成
長を向上させるための研究を行った。



Andrew Mowlah (アーツカウンシルイングランド)

アーツカウンシルイングランド(ACE)のリサーチ部門ディレクターで、ナショナル・リーダーシップ・グループ
のメンバーでもある。ACEの戦略「Lets Create」の効果をよりよく理解し、芸術・文化について最善の事例を
作るためのリサーチと評価を委託する最終責任者である。2013年にACEに参加する以前は、Northwest
development Agencyのリサーチ部門シニアマネージャー、ビジネスロビー団体のリサーチ部門長を務めた。
また、民間企業や公的機関が社会の変化に影響を与えるためのリサーチの分野で幅広く活躍している。



* 本セミナーは、日本学術振興会「国際共同研究事業 英国との国際共同研究プログラム
(JRP-LEAD with UKRI)」に採択され日英のチームで進めている国際共同研究プロジェクト「持
続可能な文化の将来—コロナウィルスと文化政策の再構築」(2021年12月~2024年11月)
JPJSJRP20211707の成果の一部をご紹介します。

お問い合わせ先:同志社大学
創造経済研究センター事務局
TEL: 075-251-3728 / FAX: 075-251-3727
E-mail: rc-csce@mail.doshisha.ac.jp